

わが国で 1980 年代後半に起きた『バブル経済』を振り返って ～ 先進諸国で囁かれている “Japanization” への教訓～

経営管理研究科 教授
野間 修

目次

はじめに

第 1 章 日本のバブル経済の下地となったもの

- 第 1 節 バブルとは
- 第 2 節 「レガノミクス」について
- 第 3 節 「プラザ合意」について
- 第 4 節 80 年代半ばからの金融自由化と国際化

第 2 章 日本のバブル経済を発生させたもの

- 第 1 節 プラザ合意後に急速に進展した円高・ドル安
- 第 2 節 日銀に対して、大幅な金融緩和を求める声が殺到
- 第 3 節 金余り（過剰流動性）の発生で株価と地価が急騰
- 第 4 節 なぜ、日銀による金融引き締めが遅れたのか

第 3 章 バブルの絶頂から崩壊へ

- 第 1 節 バブルの絶頂期
- 第 2 節 バブルの崩壊プロセス

第 4 章 おわりに（バブル経済の総括）

- 第 1 節 バブル崩壊後の不況は「バランスシート・リセッション」
- 第 2 節 わが国のバブルの経験が残す教訓

はじめに

「失われた 10 年 (“Lost Decade”）」の言い回しが世界のマスメディアを賑わしていた時代があった。1990 年前後のことである。1980 年代初頭のメキシコを筆頭に、中南米諸国は累積債務問題に陥り、深刻な経済苦境の中で中南米諸国は 80 年代を過ごしていたのであるが、これがその